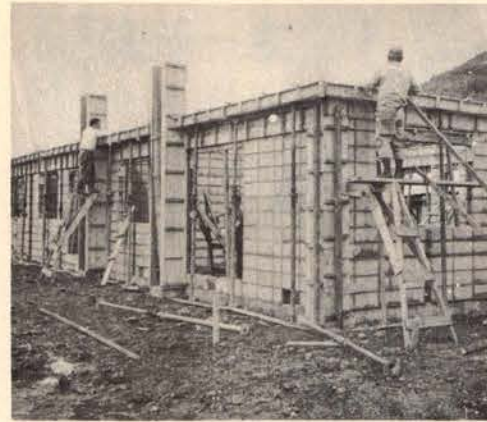


④道内3番目といわれるマンモス校舎
完成はもうすぐ……体育館など3期
工事は最後の追込みに。



③幌糠地区を中心に、ほ場整備事業、山間にブル
ドーザーの音が響きわたる。



②春日町、五十嵐町などに、公営住宅
建設は急ピッチ、道営も含めてこと
しは100戸を建設



45年度工事急ピッチ



⑤開発建設部の手によって行なわれている
留萌港整備事業南防波堤を中心に延長工
事が進められている。

昨年、国の施策により、水稲の生産調査による減反がいられていますが、留萌市の場合、この水稲生産については、ここ当分は優利性があると考えられています。

③ 土音も高くほ場整備事業

市営住宅は、ことし春日町など三地区に、七十六戸が建設されています。市でも「一人一室」を目ざして建設を進めています。土地条件に恵まれないという不利な点もあり、市街地のスラム化を解消するためにも、中高層建築の計画が進められます。

② 市営住宅は千戸に

現在、留萌市内の道路は、国道、市道を合せ、三百五十一キロ。この内、市道部分は、二百四十六キロの延長があります。市では、この道路を舗装を進めるに当り、「道路舗装五ヶ年計画」を立て、舗装と合わせ側溝の整備を進めることになりました。初年度のことしは、西五号線など八本の道路舗装が進められています。

① 50年には30%舗装を目標に

短い夏も過ぎ、秋風が立ちはじめましたが、留萌市の街づくりは、今が真最中というところ。そこで、市や開発などで行なわれている事業の一端を紹介し、明るい街づくり、住みよい街づくりに、多くの力が発揮されているのです。

⑤ 南防波堤は27メートル延長

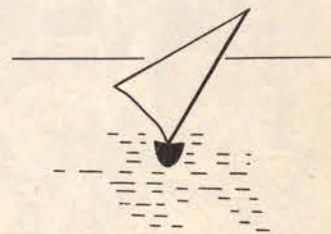
留萌開発建設部の手で行なわれている留萌港整備は、南防波堤を中心に進められています。この防波堤延長工事は、ことし二十七メートル延長されます。昭和四十七年までに赤灯台から三百メートルが延長される予定で、これが完成すると陸からの総延長が約千五百メートルになります。いまや、道北の経済を担う留萌港は、また道北一の港を誇る商業貿易港としての形態を整えつつあります。

④ 最後の追いこみ 留小の三期工事

さる四十三年から工事が進められてきた、留萌小学校改築工事は、いよいよ最後の追い込みに入り、十月三十一日完成を目途に急ピッチで進められています。最終年度のことしは、普通教室の他、屋内体育館など、一二三平方メートルが建設されます。総面積は八〇〇〇平方メートル

このため、市でも品質の改良、生産を高めるために、幌糠地区を中心とした「ほ場整備事業」が約四百平方メートル進められています。

希節のこよみ



立 秋もすぎ、暑かった夏も峠を越し、どことなく秋の気配が感じられます。お祭りもすぎましたが、街には行く夏を思い出か、盆踊りの太鼓の音が響いています。さて、学校の夏休みも、いよいよ残り少なくなりました。どこのお子さんも、夏休み明けは、気持ちゆるみがちですから、通学通園の交通事故、交友関係や持ち物などにも注意してあげたいものです。

また、夏のあいだ暑さにあてられ食欲も失ないがちでしたが、温度が低くなると体温の発散もよくなり、細胞の活動が盛んになることから、おなかもすいてきます。そこで「食欲の秋」ともなるといわれます。食事がおいしくなり、食べ過ぎる傾向があるようです。夏に失ったスタミナや弱った内臓を食事だけでとりもどそうとするのは無理です。ことに消化器系統の弱い人は、あせらず回復を待ちましょう。

九 月に入ると、秋も一段と深まります。

九月一日は、関東大震災記念日。話は古くなりますが、大正十二年のこの日、震度六という大地震が関東一円をおそい、多くの犠牲者が出たため、この日を「犠牲者の日」として記念日がもうけられました。

また、この日は二十日です。立春からかぞえて二十日に当りよく台風が来るといわれます。十五日は「敬老の日」です。留萌市でも例年、この日は多くの行事が組まれています。「多年にわたり社会につくした老人を敬愛し、長寿を祝う」の主旨で、昭和二十六年から国民の祝日の中に加えられました。このころから、そろそろ衣替えの用意です。

夏物のあと始末は忘れずに……また、カーテン、扇風機などのお掃除も忘れずに……そこで、もう着なくなった衣料からかたづけはじめ、少しずつ整理していきましょう。

不用になった夏ばつとん類、ふとんは皮をとって、秋晴れの日にえらんで、タッブリ日に当てます。皮などまる洗いで洗えるものは、必ずアイロンをかけ、仕立てあげてからしましましょう。ついでに夏用の毛布も……一枚ずつなら洗濯機でも洗えます。